

高齢者疑似体験の様子

会場 ゆうゆう久我山館

平成27年4月25日

高齢化していく過程



座って一息



なんとか歩きます



小さな段差も慎重に



時間がかかります



老老介護車椅子が杖



4月25日20代から70代の方が集まり体験用具を装着した「高齢者疑似体験」をゆうゆう久我山館で行いました。体験用具の説明と注意事項を話した後すぐに日常生活の中での行動を障害物アトラクションに見立て各自装着して挑戦！この程度ならと余裕のあった20代男性も段差超えには思わず、手をつき「アーコー」と声のでたり、紙を1枚とって名前書く、ビニール袋をあけておはじきを入れる等の手作業も困難な様子。見ている方の視線もとても心配そうになりました。終了後の振り返り茶話会では「身体が思うように動かない」「手すりがないと怖い」「音はするが言葉としてわからない」「レジ等支払いに時間がかかるのがわかった」「日常生活が不便になる」等各自の気付きたくさん言葉にしてくれていました。高齢化はだれにでも来る道です。今、知ることで自分にも他人にも優しくなれるのではと心に刻んで頂く事ができたと思う半日でした。 次回はぜひ貴方も！